

大型図書紹介記事

【様式3】

選定年度	所属学部	氏名	大型図書タイトル	紹介記事
2020	経済学部	竹内 真彦	「陸心源遺書 静嘉堂文庫所蔵漢籍 宋元版(マイクロフィルム版)」 ユニット4～6 資料番号33～追補253. 史部 86リール	<p>本資料は東京都世田谷区にある静嘉堂文庫が所蔵する漢籍のうち、北宋年間に著された編年体史書である『資治通鑑』およびその再編集版とも言える『通鑑紀事本末』を中心とした史部書籍の一部となります。</p> <p>静嘉堂文庫のコレクションは、三菱財閥の創業者である岩崎弥太郎の弟である岩崎弥之助、およびその子である岩崎小弥太が蒐集したものが基礎となっています。特に漢籍(中国古典籍)については、弥之助が晩年に陸心源という人物の旧蔵書を購入したことで、日本有数の貴重書コレクションとなりました。</p> <p>陸心源(1838-94)は中国清代末期の蔵書家として知られます。彼の蔵書には多くの宋版・元版が含まれていました。中国の宋元代(11世紀～14世紀頃)は印刷術の確立期であり、特に宋代の国子監(前近代中国における最高学府)で刊行された書籍は、当時の学術・技術の精髓であると言ってよく、版面の美しさもさることながらその内容の正確さには定評があります。</p> <p>文献的な研究を行う際、対象とするテキストの正確さは極めて重要な「前提」です。粗雑な校訂しか経ていない書籍の情報を前提に研究を進めてしまうと、結論そのものが全く説得力を失う可能性すらあるのです。しかし、本資料を基礎として研究を進めることで、この重要な「前提」はクリアできることとなります。</p>